

用水季報

令和4年1月 第8号
発行元：美しい水の会
連絡先 090-1993-5903
<http://bunji-yosui.org/>



用水通水状況：10月1日～4日、11月1日～4日、11月13日～22日の18日間、立川市域の枯葉詰まりと五日市街道沿い渠内の浚渫のため止水しました。その後、11月24日～12月1日に小平市域砂川用水護岸整備のため止水となり、10月1日より年末までの期間では、合計26日間（止水率28.3%）止水となりました。秋は大量の枯葉が流れて来て、止水が起りやすいシーズンですが、国分寺市内の水路で枯葉などによる止水はなく、12月以降降水量も豊富に美しく流れています。10月からの美化活動は定期的活動18回、気づき清掃20回でした。本年は一層の親水化を進めるよう、努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年の美化活動：市との協働基盤による美化活動の1年

10月からの美化活動を通じて、国分寺市域内で止水の原因となる水路内でのゴミや枯葉の詰まりが無い状態が続いています。こうした保全状態が生まれた背景には、市・緑と建築課のご尽力がありました。

今までも取り組んできた体制・仕組みではありますが、止水した、あるいは止水しそうな状況で、立川市・小平市へ迅速な連絡を取る仕組み、定期的用水の観察、用水路整備の継続、迅速なゴミの収集要請への対応、などが継続的に、着実に実施されているのです。さらに今年は、砂川用水を利用したイベント開催当日に、止水をしないよう、立川・小平両市に止水する護岸工事等を行わないよう要請をする仕組みも実現し、用水の活用がしやすい整備環境が実現しています。美しい水の会の基本である砂川用水を多摩川の水が流れ、児童も親しめる用水にしたいという親水化への想いを実現するための基盤が円滑に生かされ、市の協力とご尽力に感謝する1年でした。用水を常に美しく流すという美化活動を基本として、その美しい流れが、憩い、水に触れ楽しめる用水となるよう、市の「緑の基本計画実施計画」に沿って、一層の砂川用水親水化を図る年にしたいと考えています。



新春の並木町公園協砂川用水路

皆さんといっしょに **楽しく** くつろげる **用水** を創りましょう

300年近く流れ続けている この砂川用水を
だれでも安心して 水に親しみ、集えるところ
になるようにしましょう！

美しい水の会は、一人ひとりが自分の想いをカタチにして、砂川用水の親水化を考えてゆきます。

皆さんと一緒に、流れを守り、憩える空間を作りませんか？ ご参加ください。

☎090-1003-5903 ☒ホームページ【<http://bunji-yosui.org/>】までご連絡下さい。

「じゃぶじゃぶ水遊び」開催

前号でお知らせした「じゃぶじゃぶ水遊び」を昨年10月23日（土）並木公民館親水施設で開催しました。美しい用水の会として、児童を対象に、はじめて、水と親しめる自主イベントの開催となりました。会としては、水遊びの材料として笹舟用の笹の葉、木舟用の端板、「国分寺にふるさとをつくる会」の協力を得て用意した竹水鉄砲の材料など、水遊びの材料を用意しました。六小のPTAの方や保護者の方に、笹船づくり、木舟づくり、水鉄砲づくりのお手伝いをいただき、児童の水遊びの創造性に任せたイベントでした。やはり水遊びは子どもの自由な発想に刺激を与えていました。参加児童



は水に入り、走り回り、笹舟や木舟、水鉄砲の競争を考え、歓声が絶えることない「水遊び」の時間となりました。「こうした水遊びが出来る場所があるとは知らなかった！」という保護者の皆さんも、水にぬれた我が子を微笑みながら用水岸から見守っていらっしゃいました。

用水での子供たちの遊びの実際を知り、安全、安心して遊べる場として、滑りやすい縁石をどうするかなど、改善必要点も明らかになり、これから皆様と一緒に提案してゆく「用水親水化」のカタチを考えるうえで大いに参考となる催しでした。今年も開催予定のこの催しを一層楽しいものにしようと考えています。

用水トピックス：新たな発見—中藤新田分水の胎内掘発掘調査—

11月25日（木）当会15名ほどで、市・ふるさと文化財課が発掘調査を行っている中藤新田分水胎内掘の発掘現場を見学することが出来ました。発掘の結果、新たな発見があったとのこと。中藤新田分水は国分寺市域の砂川用水（旧称:野中新田分水）と同時期1729年（享保4）に玉川上水から引水され、西町の国分寺崖線上を流れ、流末は戸倉街道沿いを流れ戸倉新田分水となる用水路です。しかし、慶応3年砂川用水の玉川上水からの引水口の変更に伴って中藤新田分水へ水が来なくなり、翌慶応4年（1867年）中藤新田農民の要望により、胎内掘という、地下4mほどの所に983mの長さで、約90cm四方のトンネル状（下写真の赤枠部分）の胎内掘を、わずか4カ月で穿ったのです。今回の発掘により、今まで享保に開渠・深堀された水路（下写真黄枠部分）の下に掘られたと考えられていた胎内掘が、旧水路のすぐ横に掘られたという新たな事実が判明しました。しかも旧水路をまたぐように水路がねじれて掘られた跡も出現しました。さらに、胎内掘への階段も発掘され、伝承として伝わっていたことの実事が裏付けされました。また、この胎内掘は国分寺崖線上に掘られている関係で、崖線下の農家に胎内掘から引水した水路跡もこの発掘で明確になりました。驚きに沸いた発掘であったとのこと。



ふるさと文化財課の話では、このような構造の胎内掘は珍しく、他県や専門家の関心呼び、多くの見学者が現地視察したそうです。

しかし、発掘された胎内掘は、土壌の崩壊などの危険性があり、大切な史料としての遺構を保全するため、土嚢や砂を使い、遺構を確実に守る方策を施し慎重に埋め立てられてしまいました。埋め立てることは当面の策としては理解できますが、まずは発掘調査報告と今後どのようにこの遺構を開示し、国分寺市の歴史を語るうえで重要なこの遺構の価値をどのように情報発信してゆくかという施策考察と実施計画策定が待たれます。

令和3年度の砂川用水美化活動予定

令和4年の用水美化活動は、2月7日（月）ヤマモモ公園とその脇を流れる砂川用水の美化活動から始まります。親水化を常に考えながら、皆様の憩える空間を維持できるよう活動してまいります。実施場所、予定日時などは用水の状態によって変わりますので、詳細は「美しい用水の会」ホームページ (<http://bunji-yosui.org/>) でご確認ください。